

「近鉄小倉駅周辺地区のまちづくり」商業者アンケート調査概要

「近鉄小倉駅周辺地区のまちづくり」について商業者の意見を調査するため商店組合等にアンケート調査を実施したところ、その概要は次のとおりであった。

1. 調査対象

商工会議所：80 部（会報に同封）・・・ 2/1 号
地域商店組合等・・・ 1/28
沿道配布：約 200 部・・・ 1/29、2/1
計：約 335 部（重複あり）
回答数：65

2. 調査期間

令和 3 年 2 月

3. アンケート結果概要

【回答者の属性】

●店舗等の経営形態

- ・全体の 61.5%が「個人事業主」であり、「本社が宇治市内の法人事業所」の 26.2%と併せて、約 9 割の店舗等が地元であることがわかった。

●事業主の年齢

- ・42.5%が「60 歳以上」であることがわかった。

●店舗等の主な業種

- ・「小売業」の 38.5%が最多であり、次いで「サービス業」の 36.9%、「飲食業」の 23.1%という状況であることがわかった。

●店舗等の立地ゾーン

- ・「駅西住宅ゾーン」の 41.5%が最多であり、次いで「駅前ゾーン」の 24.6%、「幹線道路沿道ゾーン」の 20.0%、「旧大和街道住宅ゾーン」の 13.8%という状況であることがわかった。

●店舗等の営業年数

- ・「20 年以上」の 55.4%が最多であり、次いで「5 年未満」の 18.5%、「10 年以

上 20 年未満」の 15.4%、「5 年以上 10 年未満」の 9.2%という状況であり、全体の半数以上の店舗等が長期間にわたって地域で営業されていることがわかった。

●店舗等の従業員数

- ・「1～4 人」の 58.5%が最多であり、次いで「5～9 人」の 15.4%、「20 人以上」の 12.3%、「10～14 人」の 7.7%という状況であることがわかった。

●店舗等の商業団体等へ加入状況

- ・「加入していない」が 49.2%で最多であり、次いで「小倉駅前商店会」の 18.5%、「その他」の 12.3%、「小倉大好きクラブ」の 10.8%、「宇治・小倉商店ネットワーク」の 6.2%、「加入していないが加入したい」の 3.1%という状況であることがわかった。

●店舗等の顧客の主な来店手段

- ・「徒歩」が 52 件で最多であり、次いで「自動車・バイク」の 43 件、「自転車」の 41 件、「電車・バス」の 9 件、「タクシー」の 7 件という状況であることがわかった。

●店舗等の顧客は、主にどこから来られているか

- ・「近鉄小倉駅周辺地区」が 45 件で最多であり、次いで「宇治市内（上記を除く）」の 42 件、「宇治市外（京都府内）」の 34 件、「京都府外」の 6 件という状況であることがわかった。

●店舗等のここ数年の業況

- ・（コロナ禍以後の売上）「減少」が 50.8%で最多であり、次いで「やや減少」の 15.4%、「変わらない」の 12.3%、「やや増加」の 9.2%、「その他」の 6.2%、「増加」の 4.6%という状況であることがわかった。
- ・（コロナ禍以後の客数）「減少」が 50.8%で最多であり、次いで「変わらない」の 13.8%、「やや減少」の 12.3%、「やや増加」の 9.2%、「その他」の 6.2%、「増加」の 3.1%という状況であることがわかった。

●今後小倉地区で事業継続の意思

- ・「現状維持」が 64.6%で最多であり、次いで「わからない」の 18.5%、「経営の拡大」の 10.8%、「経営の縮小」の 6.2%という状況であることがわかった。

【回答者のご意見】

●近鉄小倉駅周辺地区の商業を活性化するのに重要なこと

- ・「集客が期待できる店舗や施設の整備・誘致」が34件で最多であり、次いで「周辺道路等のインフラ整備」の32件、「駐車場整備等の商業地区の基盤整備」の21件、「ファサード整備等のまちなみ整備」「地区内居住者の増加」の15件、「文化的集客施設が建設されること」の15件、「空き店舗の解消」の13件と続く状況であることがわかった。

一方、「経営者等の高齢化、後継者問題の改善」は最少の1件に止まっている。